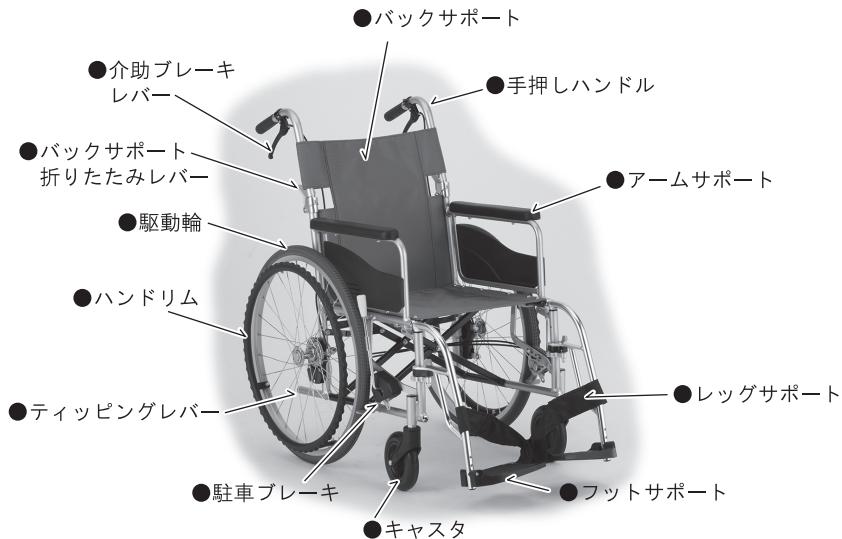


車いす テッタラ

取扱説明書

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。
なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

各部の名称



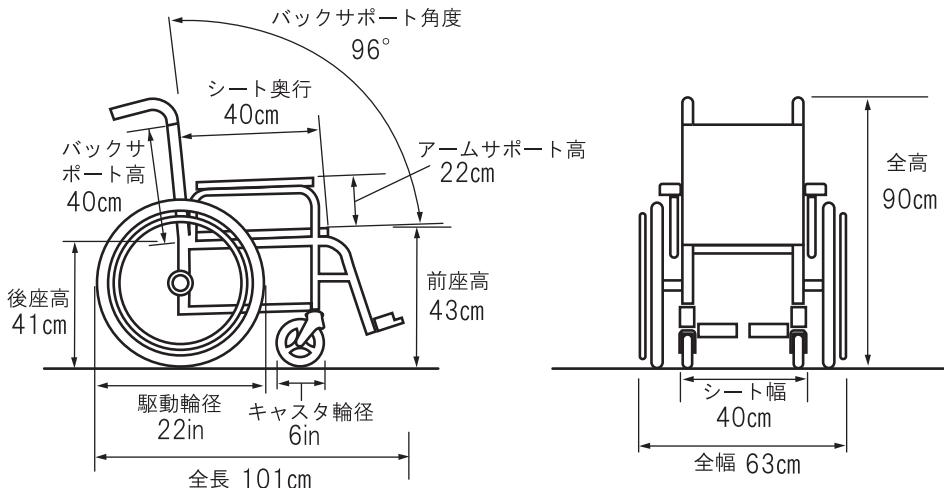
ご確認ください

車いす テッタラは乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート(背)の角度調整・座位の姿勢変換(昇降・旋回など)等の機構がない、標準型の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準型が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準型が使用に適さなくなることがあります。

仕様・サイズ

※ [() は折りたたみ時の値]

項目	機種	車いす テッタラ
全長		101(101)cm
全高		90(68)cm
全幅		63(31)cm
前座高／後座高		43／41 cm
シート幅		40 cm
シート奥行		40 cm
バックサポート高		40 cm
アームサポート高		22 cm
手押しハンドル高		86 cm
バックサポート角度		96°
キャスター		6インチPUキャスター輪
駆動輪		22インチハイポリマー車輪
フレーム材質		アルミニ軽合金
耐荷重		100kg(積載分含む)
重量		13.6kg
駆動輪 取付けナット		インチねじ(UNF1/2-20山)を使用



車いすの拡げかた

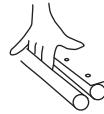
- 1 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。



- 2 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下方へ押し下げます。

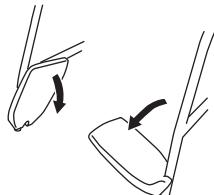


注意
警告



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

- 3

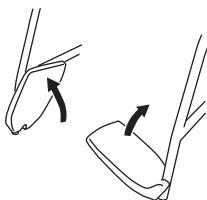


フットサポートプレートを下方へ回転させるようにセットします。

使用者が車いすに座つてから行うのが一般的です。

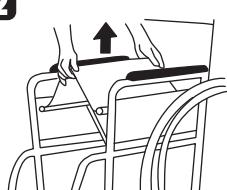
車いすの折りたたみかた

- 1



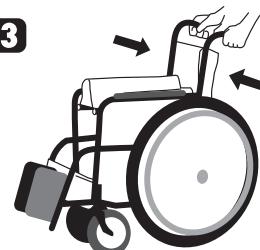
フットサポートプレートを上方へ回転させて収納します。

- 2



座面シートの、前後中央部を持ち上げます。

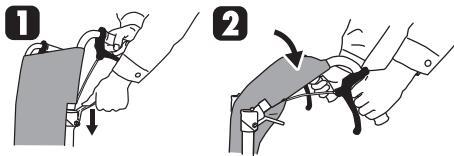
- 3



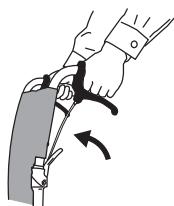
手押しハンドルを持って、左右から押し縮めるように折りたたんでください。

バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすようを持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。



車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。



注意 警告

- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさまがないように注意してください。

●車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

駆動輪の操作のしかた

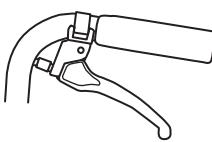


- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。

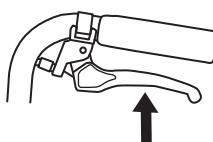


タイヤを握って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがありますので注意してください。

介助ブレーキのかけかた



解除時



介助 ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。
駐車目的では使用しないでください。

駐車ブレーキのかけかた



※説明イラストは右操作設定状態用です。
左操作設定時は左右対称の形状となります。

操作側(レバーの長い方)のノブを手で後方に引くと、左右両後輪の駐車ブレーキがかかります。
レバーを前方に戻した状態が解除です。

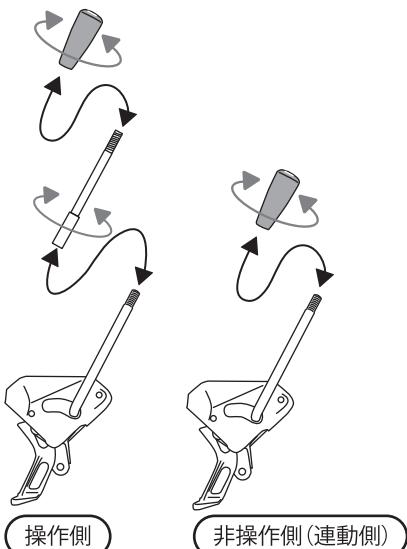


注意警告
・しっかりとブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。

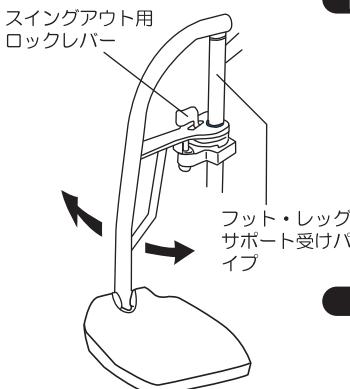
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。
- ・ブレーキレバーを動かす場合は、反対側のブレーキシューの近くにも操作者や他人の手指がないことを確認してください。ブレーキシューとタイヤの間で手指をはさむことによるケガのおそれがあります。

駐車ブレーキの操作側(左右)の変更のしかた

- 駐車ブレーキレバーの先端のノブ及び、ブレーキレバー延長棒はねじこみ固定式です。回転させることで、取外しと、ブレーキレバー延長棒の左右の入替えが可能です。延長棒とノブのついた側が駐車ブレーキの操作側となります。
- 駐車ブレーキ操作側を変更した際は、各パーツがしっかりとねじこみ固定されていることを確認してください。



フット・レッグサポートの開き方・着脱のしかた



開きかた・はずしかた

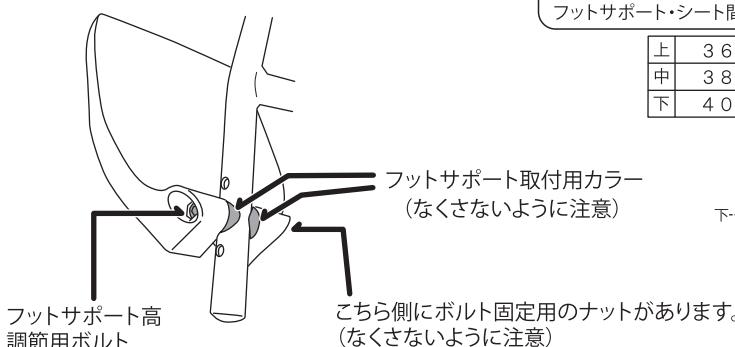
※乗車者の足をフットサポートから外した状態で操作を行ってください。

- ①スイングアウト用ロックレバーを外側へ押しながら、フット・レッグサポートを外側に開きます。
- ②フット・レッグサポートを外側へ45°程度回転させると、フット・レッグサポートを上方に引き抜いて外すことができます。

取付けかた

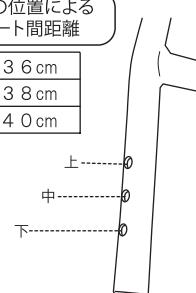
- ①フット・レッグサポートを外側に45°程度開いた状態の角度で、フット・レッグサポートのインナーパイプをフット・レッグサポート受けパイプの穴に、上からまっすぐ差し込みます。
- ②フット・レッグサポートを「カチッ」と音がするまで、内側に向けて回転させてください。

フットサポートの高さの調節のしかた



レッグパイプの穴の位置による
フットサポート・シート間距離

上	36 cm
中	38 cm
下	40 cm



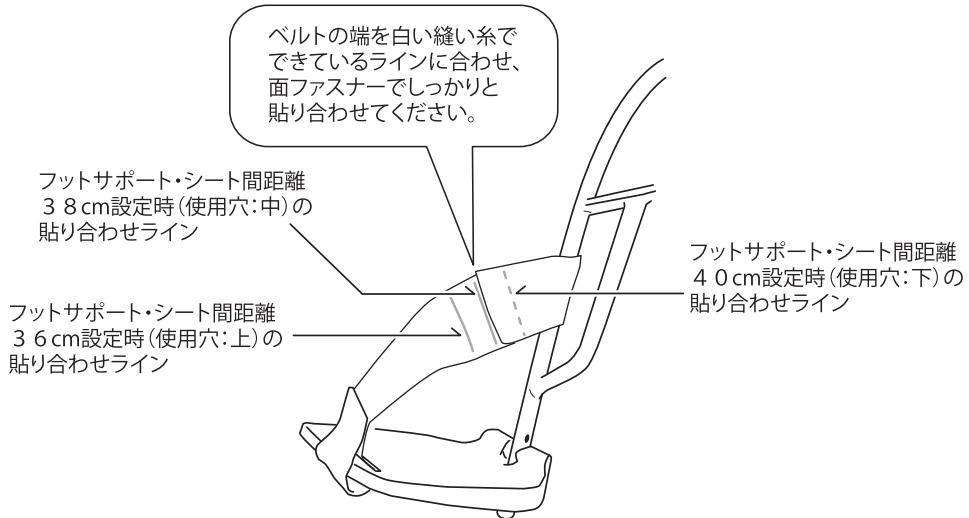
- フットサポート高の調節用ボルトを5mmの六角レンチで緩めてはずし、上図のように希望の高さの位置のレッグパイプの穴に取付けしなおします。
取付け時にはしっかりと調節用ボルトを締めて固定してください。
(フットサポート取付け用カラーとナットをなくさないように注意してください。)

※フットサポート高さを調節した場合はレッグサポートの長さの調整も必要となります。(P 7 参照)



各部の調節につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談ください。

レッグサポートの長さの調整



レッグサポートベルトは、設定のフットサポート高さ(P 6 参照)によって貼り合わせの位置をかえて、長さを調整してください。

上図のように、ベルトの端を、フットサポート高さの設定に応じたラインに合わせて、面ファスナーでしっかりと貼り合せてください。
(左右両方のレッグサポートの長さを、正しく調整してください。)

使用前点検(必ず行ってください)

- 介助ブレーキがしっかりと効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかりと効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シートやベルト類に亀裂や破れ、面ファスナーのはがれ等がないかご確認ください。
- 駆動輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

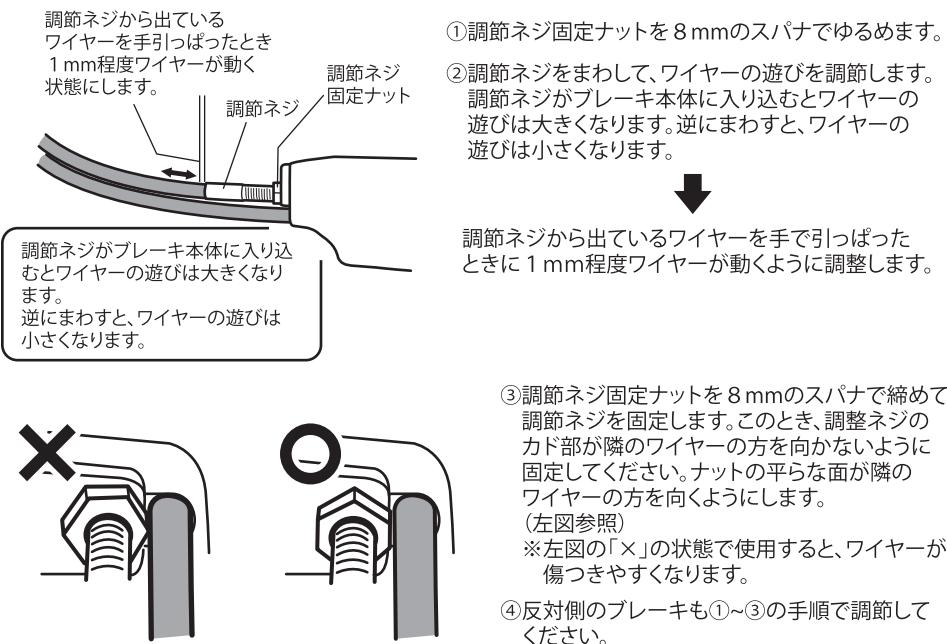
メンテナンス

- ボルトの緩み、フレームのガタなど目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス(調節・補修・修理・部品交換等)はお買い上げの販売店にご依頼ください。

駐車ブレーキワイヤーのメンテナンス

- 駐車ブレーキワイヤーの適正な遊び量は、ワイヤーを手でひっぱたときに、ワイヤーが1mm動く程度です。(下図参照)。定期的にワイヤーの遊び量が適正かどうかを確認してください。(左右両側とも確認をしてください。)

ワイヤーの調節



駐車ブレーキのメンテナンス作業(調節・補修・修理・
部品交換等)は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

保管方法

- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けてください。



警告

- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながることがあります。定期的に取扱い業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーター及び動く歩道での使用はしないでください。転落、転倒による事故のおそれがあります。
- 公共交通機関で使用の際は、係員の指示に従い、安全に搭乗してください。
- 踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒するおそれがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。(アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながるおそれがあります。)
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。(使用を中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。)
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。



注意

- 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、たたいたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくと製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

車いすの使用のポイント

押し方

介助者が車いすの手押しハンドルを握り、
進行方向へ押します。
急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。
声をかけるなどの配慮をお願いします。



■外での注意(傾いた道での押し方)

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。
普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

段差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** 手押しハンドルを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャスターを上げます。
- 3** 段差に駆動輪(主輪)を当てます。
- 4** 手押しハンドルを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂道



上がるときは前向きで。



下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

溝や踏切

キャスターや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に入りしてください。直角でない場合、キャスターや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなるおそれがあります。

溝の手前でキャスターを持ち上げ、通過する方法もあります。



グレーチング

グレーチング(側溝を埋める金網など)を通過する場合は、右図の様にグレーチングに対して斜めに進入してください。



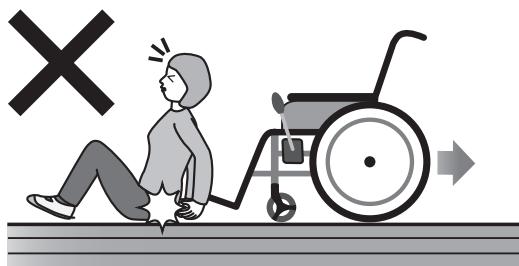
車いすを安全にご使用いただくための注意事項

 禁止 フットサポートの上に立たないでください。



車いすのフットサポートの上に立つ
ようなことはしないでください。
製品の破損のおそれだけでなく、
転倒による事故の危険があります。

 注意
警告 車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを
確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、
乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での
乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の
危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実に
かけて行ってください。

- 車いすからの乗り降り
- 車いすからベッドなどへ、
ベッドなどから車いすへの移乗
- 車いすからはなれる



車いすのトラブルシューティング

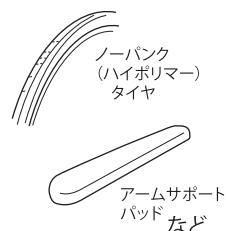
故障かな?と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解 決 方 法
斜行する。 まっすぐ走らない。	駐車ブレーキが解除されていない。	駐車ブレーキを解除してください。
	キヤスタ取付けが緩んでいる。 キヤスタ輪がスムースに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	ブレーキのタイヤ押さえ金具が汚れている。	タイヤ押さえ金具の汚れを拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) タイヤ押さえ金具とタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 車軸部ドラム押さえバンドの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等のひっかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。



ウレタン素材には 寿命 があります

- クッション性に優れているウレタン素材は、使用頻度にかかわらず
経年変化を起こし、割れ、ヒビ、崩れを起こし、破損するおそれがあります。
- 特に通気の悪い場所での長期間の保管は避けてください。
- 割れやヒビ、崩れ等の症状が発生した場合は使用を中止し、
販売店に部品交換を依頼してください。



MEMO

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a)取扱い過誤による故障。
 - (b)製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含みます。
 - (c)天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d)消耗部品、タイヤなど。
 - (e)保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f)保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限ります。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については、上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理いたします。

機種		車いす テッタラ						
お客様さま	ご住所	〒						
	(フリガナ) ご氏名	TEL						
お買上げ日	年	月	日	保有効年月日	年	月	日	まで
販売店								
(印)								
フランスベッド フランスベッド株式会社 総販売元 本社 〒163-1105 東京都新宿区西新宿6丁目22-1 新宿スクエアタワー5F TEL 0120-083413								
製造元	日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787							

製品の廃棄方法

ご不用となった製品を処分される場合の廃棄方法につきましては、
お住まいの自治体のルールに従ってください。